

令和5年度(2023年度)北海道防災総合訓練(後期)

- **目的**
北海道地域防災計画に基づき、北海道、防災関係機関、関係市町村の共同により、実動訓練を実施して各種災害応急対策計画の実効性を検証し、北海道の災害対応力の強化を図る。
- **訓練日程・主要会場**
令和5年12月19日(火) 大樹町
- **主催等**
●主催 北海道防災会議 ●共催 十勝総合振興局管内4町
- **訓練内容**
 - 1 訓練想定 厳冬期において、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震(十勝沖を震源とするマグニチュード8を超える地震)に伴い、大規模停電や太平洋沿岸地域に大津波が発生
 - 2 訓練実施項目
 - 情報伝達訓練
 - 防災情報システム等複数の伝達手段を用いた情報伝達・共有
 - 各種手段(防災無線、エリアメール等)を活用した情報の伝達
 - 臨時災害放送局による避難所情報の発信
 - カメラを搭載したドローンによる被災状況の確認及び映像伝送
 - 住民避難訓練
 - 車いす利用者など高齢者等要配慮者への避難支援
 - 防災無線を使って外国人居住者(技能実習生)の母国語により避難の指示を実施
 - 避難者にGPSを携帯してもらい避難経路や移動距離等のデータを測定
 - 避難所運営訓練
 - 大規模停電時における非常用発電の起動
 - 受付時における一般避難者と要配慮者のトリアージ
 - 北海道国際交流・協力総合センターと連携した外国人居住者の受け入れ及び母国語による通訳の実施
 - 宗教上の戒律等に配慮した食事の提供、礼拝スペースの設置
 - 段ボールベッドの組立、救護所等のブース設置
 - 防災講話
 - ①「寒冷期の津波災害を想定した逃げるまでの課題と逃げてからの対策」
講師:日本赤十字北海道看護大学 教授 根本昌宏
 - ②「防災体験プログラムin大樹町」(外国人向け)
講師:北海道外国人相談センター長 小田島 道朗
 - 関係機関等による車両・防災関連物品等の展示、研修

項目	内容
10:00	訓練開始(発災) ・シェイクアウト訓練、エリアメール・防災無線による大津波警報等
10:00~10:50	住民避難、避難所受付 ・一部避難者はGPSによる測定を実施、外国人居住者対応(HIECCとの連携)
10:50~11:00	町長挨拶 ・外国人居住者に対しては、同時通訳
11:00~11:10	主催者挨拶、全般説明 ・危機対策局長による挨拶、訓練の全般に関する説明
11:10~11:40	防災講話 ・日本赤十字北海道看護大学教授 根本昌宏氏 ・北海道外国人相談センター長 小田島道朗氏(外国人向け、別会場)
11:40~11:55	非常食の加熱 ・加熱剤を使用した非常食の加熱について説明
11:55~12:25	ベッド、トイレ・フリーベントの訓練 ・段ボールベッド組み立て訓練、トイレ・フリーベントの研修
12:25~13:00	非常食の試食、展示物の見学 ・加熱した非常食の試食、屋内・野外の展示物品、車両等の見学
13:00~13:45	避難所の説明 ・臨時災害放送局、救護所、北海道災害復旧支援士業連絡会、高齢者スペース等
13:45~14:00	避難所での保健・健康維持 ・北海道DWAT、北海道JRATによる説明、避難所体操等
14:00~14:15	アンケートの記入 ・住民によるアンケートの記入
14:15~14:25	訓練講評 ・防災・危機管理アドバイザー 細川雅彦氏
14:30	訓練終了 ・訓練終了アナウンス

- **参加機関等** 計33 団体(うち町 4団体) 約 375名
- 【北海道(1)】
総務部危機対策局、保健福祉部福祉局
十勝総合振興局
- 【訓練参加市町村(4)】
大樹町、広尾町、幕別町、豊頃町
- 【公的機関(7)】
北海道総合通信局、北海道開発局、札幌管区気象台、北海道地方環境事務所、陸上自衛隊北部方面隊
北海道警察、北海道立総合研究機構
- 【民間機関等(21)】
東日本電信電話株式会社北海道事業部、株式会社NTTドコモ北海道支社、KDDI株式会社
ソフトバンク株式会社、北海道電力ネットワーク株式会社、一般社団法人北海道薬剤師会
公益社団法人北海道看護協会、一般社団法人日本産業・医療ガス協会
一般社団法人日本コミュニティ放送協会北海道地区協議会、公益社団法人北海道国際交流・協力総合センター
アキレス株式会社、株式会社AIRSTAGE、帯広日産自動車株式会社、株式会社クワザワ、新成物産株式会社
全日本ロータス同友会北海道ブロック、日本セイフティー株式会社、北海道コカ・コーラボトリング株式会社
北海道災害復興支援士業連絡会、北海道災害リハビリテーション推進協議会、株式会社ムラカミ
- ※上記については、主要会場において協力いただいた機関を掲載
- **参加者の声(主要会場におけるアンケート集計結果)**
対象者81名、うち回収54名(回答率66%)
- 全般
外国人を含め、全ての参加者が本訓練が役に立ったと述べている。
特に防災講話、段ボールベッドの組立訓練及び災害用トイレの使用法が好評であった。
- 訓練に参加して最も印象に残ったこと
1:災害用トイレの使用法 2:段ボールベッド組み立て訓練 3:防災講話
- 今後訓練に取り入れて欲しい事項
1:支援物資受入訓練 2:宿泊訓練 3:ペット同伴訓練
- その他自由意見
○新たな知見や技術革新を踏まえた最新のノウハウ、対処法や器材等について認識し、防災に対する意識を高めることができた。
○様々な関係機関の業務内容等に関する知識を深めることができた。
○防災関係機関相互の認識共有や理解を深めることができた。
○逃げてから(被災後)の対策について考えていなかったが、その重要性について認識した。
○移住してきた者だが、寒さ対策等、避難所生活における北海道ならではの注意事項を理解できた。
○外国人の受け入れ訓練は、今後も益々必要性が高まるため、大きな気づきとなった。
○自然災害が起きたときにとても役に立ちます。たくさん新しいことを学びました。(外国人参加者)
○私たちのような外国人にとって災害に備えた訓練はとても役に立ちました。有り難うございました。(外国人参加者)

令和5年度(2023年度)北海道防災総合訓練(後期)の主な様子(主要会場)

情報伝達訓練



各種手段を活用した情報伝達
(防災無線・エリアメール等)



臨時災害放送局の開設

情報伝達訓練



ドローンによる空撮(陸自)

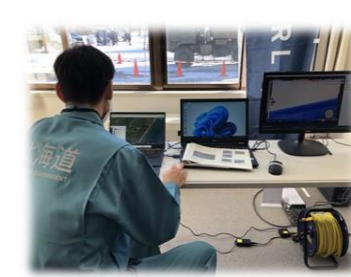


ドローンによる空撮(開発局)



ドローン映像の伝送

情報伝達訓練



被災状況のモニタリング(避難所)



Starlinkによる通信の確保



被災状況のモニタリング(道庁)



避難所運営訓練(開設・受付・講話・各種訓練)



非常用発電の起動



避難住民の受付



外国人居住者の受け入れ



住民に対する防災講話



非常食の加熱・試食



自衛隊による炊き出し



段ボールベッドの組立



簡易トイレの使用方法についての研修



災害支援型自販機についての説明



医療関係者による避難所以外



住民避難訓練



自家用車による住民避難



車いす使用者への避難支援

避難所運営訓練(HIECCとの連携)

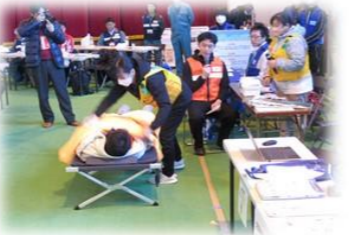


外国人居住者に対する講話



外国人居住者への通訳対応

避難所運営訓練(避難所ブースの説明等)



救護所の説明・事例紹介



災害復興支援士業連絡会の説明



町による高齢者等支援の説明



DWATの活動説明



DoRATの活動説明